

エンドオブライフ・ケア援助者養成基礎講座 事例検討用フォーマット

症例(イニシャルで記入)		性別	年齢	病名	
		男・女	代		
【経過(簡潔に)】					
		内容			
苦しみ	解決できる苦しみ	● 痛み ● 療養場所 入院ではなく自宅で過ごすこと			
	解決が難しい苦しみ	● 弱い姿は見せたくない思い ● なんで、私がこんな目にあうのか ● もう治療がないと言われ、これからどうなるのか不安	解決が難しい苦しみをていねいに聴く		
上記の苦しみがありながらも穏やかになれる理由(=支え)として、以下【1】にその内容を書きます。それを援助者である第三者が具体的に支援する方法【2】と、それは誰ができるか【3】をお書きください。専門職によるサービス導入を前提とはせず、あくまでも、本人の支えを起点として、何ができるかを考えます。また、【2】は、過去にご自身が実際行った事実に限らず、講座で学んだ今であればどのように考えるかを記入してください。					
		【1】内容	【2】どのように強めるか	【3】誰が	
支え	選ぶことができる自由	①療養場所	・家に帰り自宅で過ごすこと		
		②心が落ち着く環境(条件)	・痛み少なく過ごすこと ・主人や子ども達と一緒に過ごすこと		
		③尊厳	・主人と出会い、子ども達が生まれて、今までは、本当に幸せな人生 ・子ども達にも、ずっと生涯かけて、学び続けることを伝える ・人生で一番の学びは、人はいつも学び続けること		
		④希望	・主人や子ども達と一緒に過ごしたい ・子ども達の前では良い母親でいたい ・おいしい料理をつくってあげたい ・子ども達には、勉強も大切だけれど、まずは健康でいてほしい ・子供達には習っているスポーツは、続けてほしい ・部活の帰りに立ち寄った公園にも行ってみたい		
		⑤保清	・トイレの移動ができなくなったら腕の良い介護の皆さんにお願いする		
		⑥役割	・母親らしいこと ・子ども達においしい料理をつくってあげること		
		⑦ゆだねる	・下のお世話を腕の良い介護の皆さんにお願いする		
		⑧栄養			
		⑨お金			
		支えとなる関係	・主人(優しく、買い物を手伝ってくれたり、掃除やゴミ出しなど担当) ・子供達(治療中の支えとなっていた)		
	将来の夢	・中学・高校時代の同級生に会いたい ・部活の帰りに立ち寄った公園にも行ってみたい ・向こうに逝っても、試合で活躍する姿を必ず大きな声で応援する			
家族などへの支援(該当する人がいない場合には空欄でも可)					
援助者への支援(受講生自身を含む)					
事例を通して私が学んだこと					

この事例検討用フォーマットは、「認定援助士」用の提出課題と共通のフォーマットです。

養成講座での演習時には、あらかじめ【1】支えの内容が記入されているこちらを使用します。

みなさんは、【1】を踏まえて、【2】と【3】を考えます。

⇒対面の場合:付箋紙に書き出し模造紙に貼りだします。

⇒オンラインの場合:スプレッドシートに記入します。